

第87回火山噴火予知連絡会 議事録（有珠山部分の抜粋）

日 時：平成12年11月1日（水） 10時00分～18時45分

場 所：気象庁第1会議室

出席者：会 長：井田

委 員：平澤、宇井、浜口、藤井(敏)、渡辺、歌田、平林、藤井(直)、須藤(靖)、石原、清水、
藤原（代理：科技厅）、中辻（代理：国土庁）、早川（代理：文部省）、須藤(茂)、村上（代理：地理院）、
植田、鶴川（代理：防災科研）、内池、竹内、吉田、望月

臨 時 委 員：石井、武尾、土井、勝井、中田、大島、小山、津久井、荒牧、中村

名 誉 顧 問：下鶴

オブザーバー：森（北大理）、森（東大理）、斎藤（岩手大）、大倉（防災科研）、大瀧、佐々木、小荒井、松尾（地理院）、
反町（土木研）、浦塚（通信総研）、広田、中禮、福井、山本(哲)、坂井、藤原（気象研）、
角村（地磁気観測所）、前田（仙台管区）、稲葉、高橋（福島地台）、小林、酒井（盛岡地台）、
黒澤（内閣官房）、高橋（岩手県）、高木（東京都）

事 務 局：山本(孝)、小宮、横田、山里、佐藤、佐久間、西脇、瀧山

（中略）

3. 最近の火山活動

1) 三宅島

（中略）

2) 有珠山

＜資料説明＞

① 気象庁

- ・気象庁資料紹介。地震微動等、GPS、セオドライト観測の現状。
- ・放熱量。活動レベルは当面このままと見られる。

② 北大

- ・隆起域変動。8月からは一定で沈降。温度上昇は続いている。有珠山の現状と今後の問題点についての文書付けた。
- ・4/7の小規模な低温サージを確認。

③ 東大理

- ・CO₂放出量。このところ大きな変動なし。

④ 東工大

- ・火山灰付着成分。SO₂は1日数トン。西山噴気地帯のガス組成。COは見られなくなった。周辺の水質、西山地下をとおり地下水のCl変化、昭和南山あたりまでは影響があった。虻田下水トンネル地下水温度上昇続く。マグマからの熱はかなりのものの。

⑤ 地調

- ・光波測距。変化は停滞から反転へ。
- ・空中磁気測量。これから時間変化を見ていく。

⑥ 地理院

- ・GPS、有珠山をはさむ測線、伸びから反転縮み。辺長、収縮傾向。水準測量、77年噴火後8 cm/年で山頂部は沈降していた。
- ・航空機温度観測。N-Bの温度上昇。

＜見解案の検討＞

- ・隆起が停止したのは7月末。収縮を示す地殻変動は続いている。山体の収縮も続いている。

3) 北海道駒ヶ岳

（以下略）

（全文は、会報第79号に掲載）